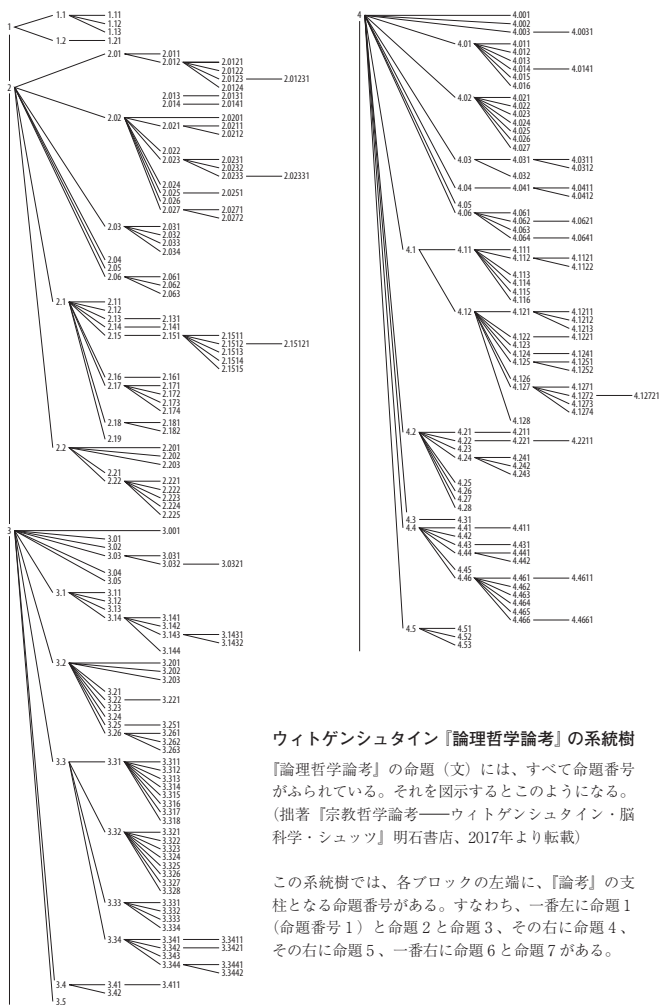
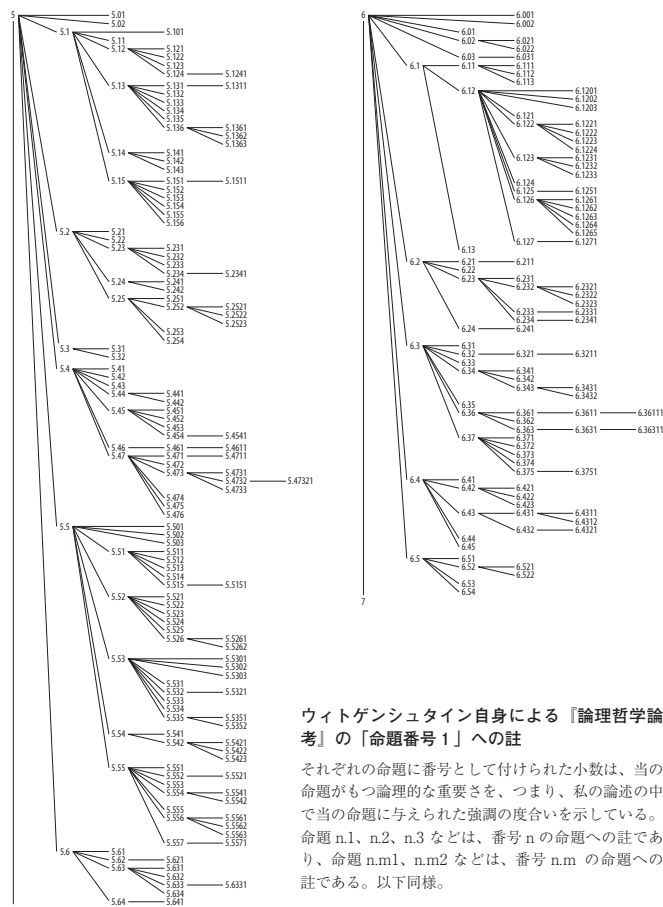




ウィットゲンシュタイン『論理哲学論考』の系統樹

『論理哲学論考』の命題（文）には、すべて命題番号がふられている。それを図示するとこのようになる。（拙著『宗教哲学論考——ウィットゲンシュタイン・脳科学・シュッツ』明石書店、2017年より転載）

この系統樹では、各ブロックの左端に、『論考』の支柱となる命題番号がある。すなわち、一番左に命題1（命題番号1）と命題2と命題3、その右に命題4、その右に命題5、一番右に命題6と命題7がある。



ウィットゲンシュタイン自身による『論理哲学論考』の「命題番号1」への註

それぞれの命題に番号として付けられた小数は、当の命題がもつ論理的な重要さを、つまり、私の論述の中で当の命題に与えられた強調の度合いを示している。命題 n.1, n.2, n.3 などとは、番号 n の命題への註であり、命題 n.m1, n.m2 などとは、番号 n.m の命題への註である。以下同様。

※本書で議論の中心となる「命題7」には「註」が一切なく、これは例外的な重要さをもつ。もっとも長い「4.12721」や「6.36311」などは、「命題4」や「命題6」などに対して重要性が第5ランクの命題となり、それほど重要な命題ではないことになる。ただし、これらの番号をもつ多数の命題が体系的に論理的に秩序だって整理されているかという、必ずしもそうではない。